

令和7年産小麦の作況と麦類の当面の技術対策

米麦畜産課
(農産振興室)

生育の概況	11月播種ほ場の生育は順調に進んでいるが、12月播種ほ場の生育は乾燥により発芽が遅れ、播種時期による生育差が広がっている。
作業の進捗状況	麦踏み、除草剤散布、追肥、排水溝の整備

1 気象経過 (前橋橋地方气象台データの平年比、2月は20日まで、参考資料参照)

項目	11月	12月	1月	2月
平均気温	+1.5℃	+0.3℃	+1.3℃	-0.2℃
降水量	140%	-%	20%	5%
日照時間	105%	115%	115%	100%

2 生育概況

(1) 概要

播種作業は概ね順調に進んだが、一部では11月上旬のまとまった降雨により1週間程度遅れた。11月播種ほ場では出芽が順調であったが、12月以降の播種ほ場では低温と乾燥の影響により、出芽が遅れた。12月以降降雨が少なく、1月は温暖に推移したものの乾燥傾向は続き、播種時期による生育差が大きくなっている。2月上旬頃で分けつが殆ど発生していないほ場も見られている。

一部の二条大麦では、下葉の黄化や葉先枯れが見られたが回復している。生育が早まっているほ場では、春先の凍霜害の発生が懸念される。

(2) 病害虫・障害等の発生状況

病害虫は目立った発生は無く、湿害は平年より少ない。

雑草は、乾燥傾向のため平年より少ないが、スズメノテッポウ、ネズミムギ、ヤグルマギク、ヤエムグラ、カラスノエンドウの発生が見られる。

(3) 作況ほ等の調査結果

作況ほの播種期の平均は11月25日(過去平均比+3日遅い)、2月20日現在の草丈の平均が12.1cm(同102%)、莖数の平均が760本/m²(同75%)となっている。

農業技術センター稲麦研究センターの小麦生育基本調査結果(「さとのそら」、11月14日播種)では、2月20日現在、草丈が8.4cm(過去10カ年平均比94%)、莖数が617本/m²(同118%)となっている。

(4) 作柄のまとめ

小麦の作柄は、各地区とも全て「並」であることから、県内の平均作柄は「並」が見込まれる。

表1 小麦作況は調査結果（さとのそら）

地 区	播 種 期	12月20日		2月20日	
		草 丈 cm	茎 数 本/㎡	草 丈 cm	茎 数 本/㎡
平 均	11月25日(+3日)	7.3(82)	223(89)	12.1(102)	760(75)
前橋市	11月18日(-日)	9.1(-)	173(-)	9.1(-)	768(-)
伊勢崎市	11月24日(+2日)	6.3(83)	209(93)	11.8(103)	717(69)
高崎市	11月21日(+4日)	7.6(78)	170(73)	11.6(92)	748(68)
太田市	12月3日(+4日)	-(-)	-(-)	11.7(113)	521(97)
千代田町	11月22日(+3日)	8.1(86)	290(98)	13.3(103)	1,053(78)

*各地区の()内は過去の平均値に対する日数および比率(%)。
 日数の「-」は早い、「+」は遅いことを示す。
 過去の平均値は、前橋市は令和6年ほ場変更により過去値なし、伊勢崎市は過去3年、高崎市は同5年、太田市は同10年、千代田町は同3年の値。前橋市は県平均から除外した。

表2 農畜産課・地区農業指導センター管内の麦類の作柄概況

地 区	県平均	中 部	伊勢崎	西 部	東 部	館 林
作柄概況	並	並	並	並	並	並

3 技術対策

(1) 追肥

茎立期前に追肥を実施し、収量・タンパク質含量の安定と向上を図る。

追肥量は10a当たり窒素成分で「さとのそら」「つるぴかり」「シュンライ」2～3kg/10a、「ゆめかおり」2～4kg/10a、「きぬの波」4～6kgを目安とする。

また、パン用小麦では、高タンパク質含量確保のため、出穂期～開花期に窒素成分で2～4kg/10a追加で施用する。

(2) 麦踏み

凍上害・凍霜害・乾燥害の防止、分げつ促進および倒伏防止を図るため、麦踏みを茎立期前まで実施する。本年は生育が前進しているため、生育ステージをよく確認し、実施時期に留意する。

近年は登熟期の枯れ熟れが多いことから、麦踏みの実施により根張りの向上と保水性の向上を図る。ただし、土壌水分が高い場合、土壌が凍結している場合は作業を見送るとともに、湿田での過剰な麦踏みは避ける。

(3) 排水対策

近年は、気象条件が極端化する傾向にあり、生育中に大雨に見舞われる場合があるため、排水溝の確認や連結部分の手直しを行い、大雨時の速やかな排水を図る。

(4) 病虫害対策

赤かび病の感染を防ぐため、ほ場周囲に放置された稲わら等を除去し、畦畔を含めたイネ科雑草の防除を行う。

(5) 雑草対策

今後、麦や雑草の生育が急速に進むことから、草種や生育状況を確認し、殺草限界を超えないよう適切に処理する。

【参考資料】

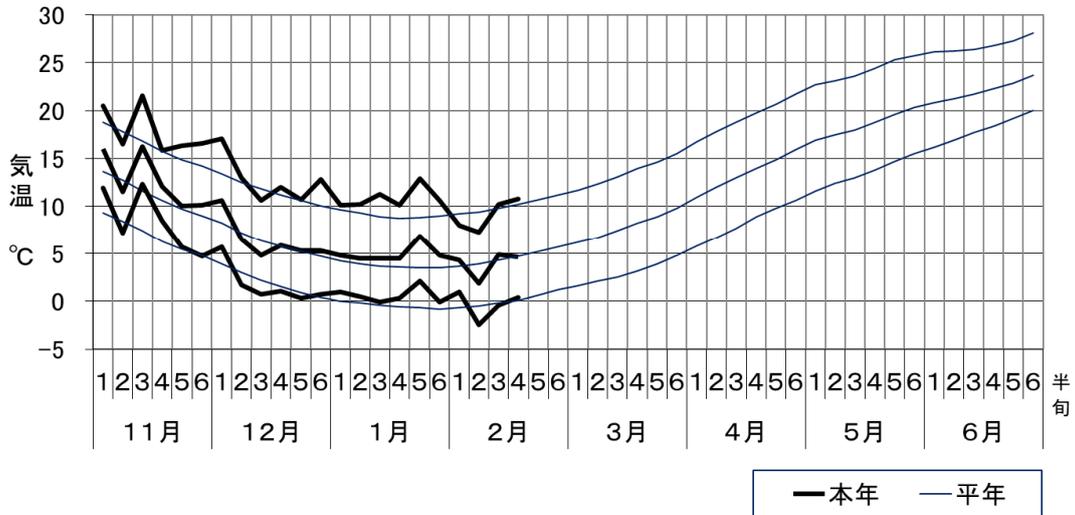


図1 麦作期間の気温（前橋地方気象台）



図2 麦作期間の降水量（前橋地方気象台）

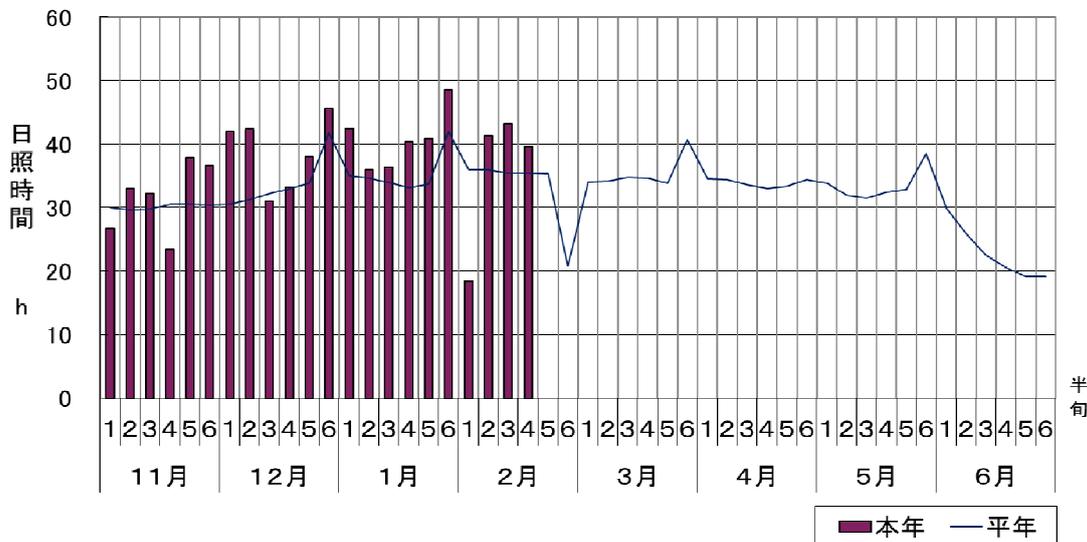


図3 麦作期間の日照時間（前橋地方気象台）